

C 特別支援教育

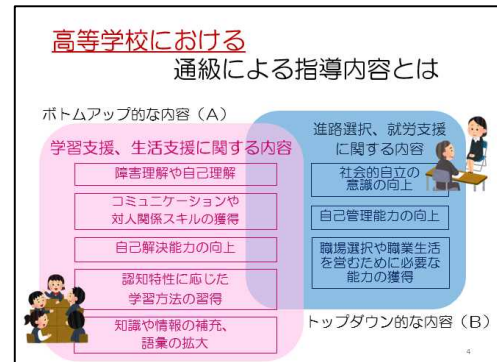
1 テーマ 高等学校の通級指導における自立活動の指導内容と授業づくり 2 研究の概要

昨年度の1年目の研究で明らかにした通級による指導（以下、通級指導）の課題から、今年度の2年目の研究では「自立活動の指導内容と指導方法」について県立荒川高等学校（通級指導担当職員）と実践研究を行い以下の具体的な提案を行った。

(1) 高等学校における通級指導での自立活動の指導内容

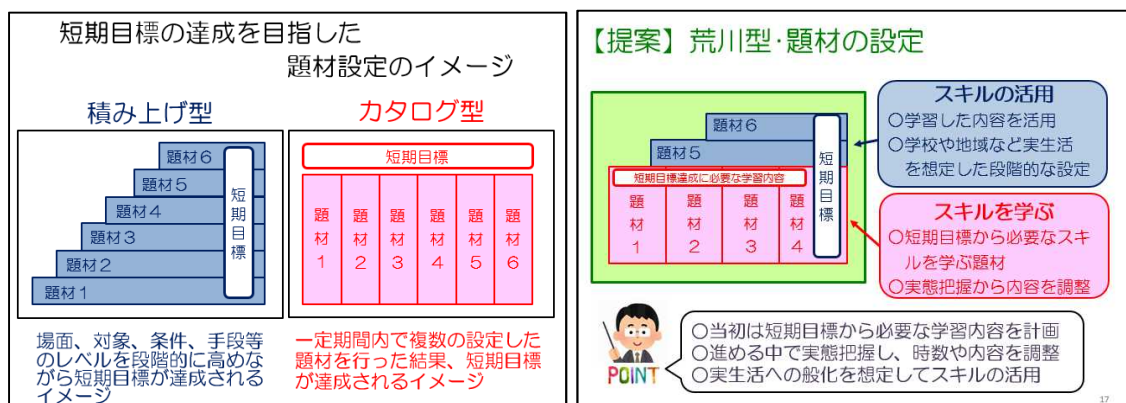
荒川高等学校通級指導では、「自立探求」と「就労探求」の2コースを設定し、生徒の目標に応じた指導を目指している。各コースで「学習や生活に係る支援に関する内容」「進路選択・就労支援に関する内容」を柱として捉え、必要となる指導内容の見直しを行った。

「自立探求」では生徒本人の困難さに応じるボトムアップ的な視点、「就労探求」では卒業後を見据えたトップダウン的な視点での内容設定が必要であることを確認した。生徒の実態に応じたコース選択でそれぞれの視点を意識することが重要であると同時に、二つの視点を個々の生徒の教育的ニーズに応じて軽重づける柔軟性も必要であることが確認できた。



(2) 学習計画における題材の設定について

指導内容から具体的な題材を設定する段階においては、授業の評価と指導者間の協議をとおして『積み上げ型』と『カタログ型』の2つのイメージでの題材設定方法を組み合わせたものが有効であると確認できた。単元の前半に「スキルを学ぶ」題材で個々の生徒の実態把握も行いながら学習内容を調整し、後半に「学んだスキルを活用する」題材で実生活への汎化を目指す学習内容への展開を図るこの方法を『荒川型』と名付け、当分科会でも提案した。



3 まとめ

分科会当日は、チームからの提案と荒川高等学校からの実践発表、通級指導担当の遠山教諭へのインタビューを動画で配信した。『荒川型』題材設定や荒川高等学校の特色ある取組について、参加者の95%から「今後の参考となる」という肯定的評価を得ることができた。今後も、学校現場における当該校ニーズに応える調査・研究を進めていく。